

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和3年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2021-7	データ同化をベースとした高耐久フライアッシュコンクリート舗装についての技術研究開発	日本大学 教授 岩城 一郎	A
<p><研究の概要></p> <p>本研究は、アスファルト舗装からの適切な転換が期待されるコンクリート舗装に対し、設計供用期間 100 年の実現を目指し、SIP で培った高度な実験と解析を駆使したデータ同化手法をベースに、高耐久 FA コンクリート舗装の開発と実装を行うものである。</p> <p><中間評価結果></p> <p>高耐久 FA コンクリート舗装に関する挙動特性の評価による基礎的理論の構築が順調に行われており、次年度以降の試験施工やデータ同化による定量的評価に向けた素地が整っていることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none">・膨張材の過小評価とともに、解析において圧縮ひずみの減少量の過小評価もあると考える。解析においてもひずみ変化が、実測と解析で収縮傾向がクロスする現象がみられるので、その評価が望まれる。データ同化手法をどのように解析・開発に応用・利用しているかが理解しにくい。・当初計画より若干遅れているようであるが、次年度のフィールド試験等の計画ができていているようであるので着実に進めていただきたい。・フライアッシュだけではなく高炉スラグ微粉末や膨張材などの混和材の舗装適用にまで研究の成果を応用できるため、フライアッシュの優位性を明確にしてこれらを考慮したまとめとしていただきたい。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 47 回新道路技術会議において審議したものである。